

概 要 報 告

実施期 日	令和8年8月4日(火)
部 会 名	中学校 特別の教科道徳部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善（含む個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実）

テーマ

「自己の生き方について考えを深める道徳」～効果的な議論の方法に着目して～

提案概要

発達段階もあり、自分の思いを他者に伝えることを苦手としている生徒や他者の考えに自分を合わせてしまう生徒もいる。そこで、互いの気持ちや違いを理解し、生き方について自分なりの考えをもち、意志をしっかりと表示していくことのできる力を育成していきたいと考えた。

本校の学校教育目標である「新しい時代を切り拓く「人間力」の育成」に向け、生徒一人一人が自分の思いを発信できる風土づくりを目指し教育活動全体を通じて道徳教育の充実に努めるべく学校全体で実践した。

テーマに則り議論を生むためには、まず自分の気持ちを示し、伝えられるようになる必要がある。そのため、道徳科のみならず教育活動全体を通じて生徒同士の交流の機会を作り、「考えを伝え合う」「話し合う」ことへの抵抗感をなくしていった。自己の考えを形成する場面の中で不安を解消するために、「学び合い」を各教科で取り入れ、他者との交流の中で「考えを伝え合う」「話し合う」ことへの抵抗感をなくしていった。道徳科の時間では自由に意見を交流できる場面や学習支援アプリケーションを活用するなど、他者の考えを受容しながら自分の本音を言える雰囲気づくりを意識した授業を行った。各クラスの実態や題材、時間帯によって、道徳の授業内における話し合いの形態を、ペア、4人組、生活班、自由な形など様々な形で行い、効果的な方法を検証した。また、年度当初に道徳教育全体計画及び学年ごとに作成した別葉の確認をし、「めざす生徒像」の実現に向け、各教科における授業内容や学習方法について検討を行った。さらに、定期的に道徳便りを全学年に向けて配信し、保護者への道徳教育に対する関心を高めた。

授業実践としては、「二通の手紙」という教材を用いて「遵法精神」「公德心」について行った。様々な意見や考えが飛び交う授業展開となった中で、自己の考えを大きく変容させていく生徒の姿が見られた。参観者からは「お互いを認め合っている様子がよくわかった。」「自分の意見に自信をもっている様子が見受けられた。」といった意見があった。また、「自分を変える力」という教材を用いた授業実践では、「自分を変えたいと思ったことはあるか？」との質問に

「ない」と答えた生徒は35人中1人ではあったが、「ない」と答えた生徒の周りに数人が集まり、互いの考えを述べ合い、活発に意見交換する様子が見られた。

質疑応答

- ・生徒の活発な議論を引き出すための工夫として二者択一の投げ掛けだけでなく、視点を変えるために「どちらともいえない」という曖昧な部分を残すことで、より「本心」につながる考え方を引き出すことになるのではないか。
- ・道德便りの発行は授業と日常をつなぐという点で有効である。

協議の柱及び協議概要

協議の柱「自分の本音を言えるようにするための引き出す工夫」として、①意見を述べやすくするための手立て、②出た意見を深めるための工夫を協議した。少人数のグループによる話し合いが行われ、当初は少し静かな空気感もあったが時間経過とともに活発な意見交換が行われた。その後全体を3つに分け、少人数グループでの協議の共有時間が設けられた。小・中の教員混合のグループであったため、それぞれのグループ内で、異なる学校種の視点からの意見や情報交換がなされ、小中合同部会の意義が感じられるものであった。

まとめ概要

今回の発表では、『自分の本音を言える』ようにするため、引き出すために、グループ分けやワークシート、発表形式などの学習環境設定や、「多様な考えを認め合う安心感」を醸成する学級経営における関係性の構築、定期的な道德便りの配信等の手立てや工夫が報告された。

今後、引き出した本音を、本時の内容項目（道徳的価値）の深まりにどのように繋げるのかという視点が大切となる。価値に迫るために、発問の工夫、異なる考えを自然に共有し伝える力、多面的多角的に物事を構築する場面作り、本音の言い合える温かい基盤の育成を目指していく必要がある。